

事業名 長岡市史双書を読む会

趣 旨 市民に長岡の歴史について学習する機会を提供する。あわせて長岡市立中央図書館文書資料室発行の刊行物の頒布を促進する。

実施主体 長岡市立中央図書館文書資料室

参加対象 市民

参加者数 延べ386名

回 数 2回 **日 数** 11回 **時 間** 23時間

場 所 長岡市立互尊文庫3階会議室ほか

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月29日～ 7月10日午後1時30分～午後3時30分	長岡市史双書NO.46から長岡市西蔵王の安禅寺に伝わる室町時代から江戸時代までの長岡の歴史を探る。	長岡市史双書NO.46編集担当者 田中洋史・小野民裕・田所和雄・ 小林良子・金垣孝二
	内容・方法	新刊の長岡市史双書No.46『蔵王権現領安禅寺御用記(2)』をテキストに、その回の内容について解説した。 第1回：御用記條箇(宝徳2年～安永元年)－「安禅寺御用記」の成立と阿部信成一 第2回：皇神御用記(慶長18年～嘉永3年)－文書でたどる王神祭－ 第3回：御用記(宝徳2年～宝永7年)－市の文化財、戦国末期河村検地の数々－ 第4回：御用記(宝永6年～正徳4年)－御社頭の移転工事、寄進物、年中行事－ 第5回：現地見学－江戸時代の史跡などを巡りながら文書資料室から安禅寺までを歩きます－	
2	10月2日～11月20日午後1時30分～午後3時30分	長岡市の中世の地名、村の開発の様子などを検地帳から探る。	新潟県立歴史博物館主任研究員 前嶋 敏 長岡工業高等専門学校准教授 田中 聡 城郭研究家 鳴海忠夫 長岡市立中央図書館文書資料室嘱託員 田中洋史
	内容・方法	長岡市史双書No.18『検地帳に中世を読む』をテキストに、その回の内容について解説した。 第1回：慶長2年「河村検地帳」川東地区① 第2回：慶長2年「河村検地帳」川東地区② 第3回：慶長2年「河村検地帳」東山地区 第4回：バス巡見 検地帳の現地を歩く～芹川城跡・与板城跡ほか～ 第5回：慶長3年「堀検地帳」寛永期「牧野前期検地帳」 第6回：天保3年「牧野本検地帳」	

成 果 アンケート結果より
 前期 ・ 江戸時代のわからないこと、また本を読んでも理解できないことを知ることができた。
 ・ 長岡の歴史への視野が広がった。
 後期 ・ 検地帳から地名が理解できた。
 ・ 検地帳の数値から歴史が感じられ、単なる土地台帳ではないことがわかった。
 ・ 直江兼続との関わりを理解できた。
 ・ 歴史の勉強方法がわかった。

課 題 ・ 参加者から「身近な史実を知るとは楽しいし理解しやすい。」との声がある。今後も継続して講座を提供していく必要がある。

問合せ先 長岡市立中央図書館文書資料室 (担当 星純子)
TEL: 0258-36-7832